

有松の町並みや建物の「本物」を明らかにしたい！

～6月10日の説明会にあわせて、溝口正人教授に町並み保存や調査についてお話いただきました～

- ・都市が拡張する時代は終わり、今後は古い建物などの既存の施設をどう使いこなすかという時代になってきている。また、古い建物を使い続けることは経済的にもメリットがある。
- ・ヨーロッパでは建物の外観は公共のものという考え方があり、歴史的な町並みが継承されているが、建物の内部は現代的な生活に合わせたつくりに変化している。日本の伝建地区制度もこの考え方に近い。
- ・有松の町並みは、建物の建築年代など、明らかにされていないことが多い。今回の調査では有松の「本物」はどこにあるのかを明らかにし、今後のまちづくりの手がかりを発見したい。



溝口正人教授

歴史まちづくりコラム ～有松まちづくり憲章について～

- ・有松まちづくり憲章は、多数の地域住民の参加協力を得ながら、有松東海道無電柱化の会によって2010年にとりまとめられた、有松の合い言葉です。

～有松まちづくり憲章～

私たちは、先人から受け継いだ有松のたからものを守り、次の世代に届けるために、この憲章を定めます。

- 一、有松の町並み・絞り・山車を守り、誇ります。
- 一、人と人がつながり、ぬくもりのある有松を創ります。
- 一、有松の歴史や物語を学び、遊び、伝えます。



まちづくり憲章の“うちわ”

ひとこと

小澤武夫さん(有松学区区政協力委員会委員長)

このほど名古屋市が「歴史まちづくり戦略」を策定し、有松地区の東海道沿いの町並み保存に重点的に取り組む方針を掲げられ、地元への説明会・勉強会を経て（今後も繰り返し開催されます）、この夏からは住民の皆さんや研究者等の協力を得ながら「町並み保存対策調査」が開始されることとなりました。

わたしたちも有松びとは、この5年間ほどをとっても、関係行政の方々の後押しをいただきつつ、「有松開村400年記念の数々の事業」「有松東海道の無電柱化」「中舩竹田家の再生」「有松一里塚の復元」「有松駅前手越川沿いの散策路整備」等々に力を尽くしてきました。

このことは、歴史ブームの昨今とはいえ、有松人の「残さなくてはならないもの、伝えなくてはならない他所にはない文化・宝が、有松にはいっぱいある。なんとかしなくては…」との熱意が社会に受け止められていることの表れと自認しています。

「やっと」の想いもありますが、「これがふるさと有松の宝を引き継ぐ最後の機会」と気を引き締め、情報公開、説明会等々に力を尽くし、より多くの方々のご理解と賛同・参加をいただいでいる“住民の合意”の形成に努めてまいります。

有松の歴史を活かしたまちづくりへのご意見やご質問は、歴史まちづくり推進室にお寄せください！

名古屋市 住宅都市局 歴史まちづくり推進室 担当：坂崎、栗並
TEL：052-972-2782 FAX：052-972-4485 E-mail：a2782@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp



歴史まちづくりニュースをお届けします

名古屋市では、多くの歴史資産が残る有松地区において、歴史資産を活用して地域がより活性化することを目指す、「歴史まちづくり」に取り組んでいきます。

「有松歴史まちづくりニュース」は、有松町並み保存地区にお住まいの皆さまに、歴史まちづくりに関する企画や取り組み、話し合いの経過などをお伝えする広報紙です。

皆様のご意見を聞きながら進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「町並み保存と調査に関する説明会」を開催しました

6月10日(日)並びに18日(月)に、有松町並み保存地区にお住まいの方を対象に、有松地区における歴史まちづくりや、これから実施する町並みや建物の調査に関する説明会を開催しました。

延べ40名以上の地域の皆さんにご参加いただき、建物調査の内容や町家の耐震対策などについて、ご意見や質問をいただきました。

⇒説明会の概要を中面にまとめましたので、ご覧ください。



説明会の様子

町並みや建物の現地調査を行います

有松の町並みや建物の価値を明らかにするため、町並み保存地区の建物分布状況の調査や、東海道沿いの歴史ある町家の建物調査などの現地調査を、7月下旬～8月にかけて実施します。

調査主体は名古屋市（歴まち室）です。現地調査は名古屋市立大、愛知工業大、名古屋工業大学の3つの大学の先生方と学生さんが行います。調査へのご協力をよろしくお願いします。



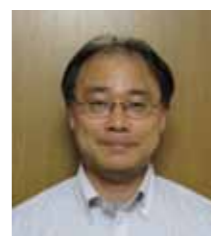
溝口正人教授
(名市大)



向口武志准教授
(名市大)



大山圭史助教
(名市大)



野々垣篤准教授
(愛工大)



岩田敏也講師
(愛工大)



是澤紀子准教授
(名工大)

今後の予定

- ・平成24～25年度にかけて、町並みや建物の調査を行い、報告書をまとめます。
- ・調査と並行して、有松の歴史まちづくりや、町並み保存・伝建地区制度に関する説明会・意見交換会などを随時開催したいと考えています。ぜひご参加ください。

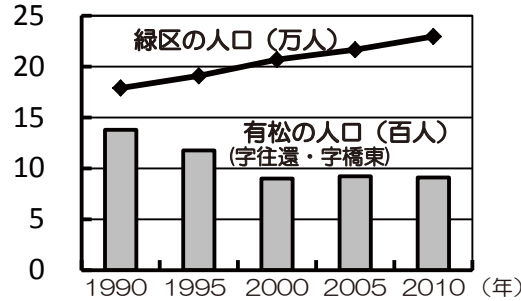


「町並み保存と調査に関する説明会」のあらまし

6月10日(日)、18日(月)に、有松の歴史まちづくりの現況や、町並み保存地区の調査に関する説明会を開催しました。今回の紙面では、有松の歴史まちづくりの現況を中心に報告します。

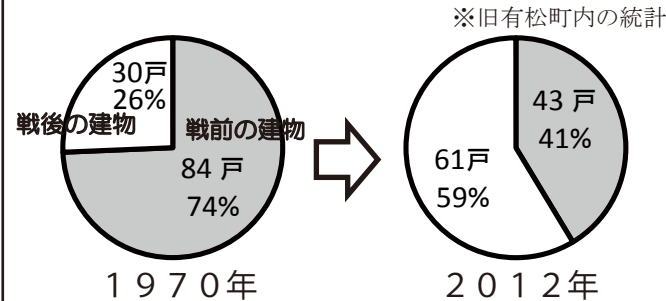
人口の推移

緑区の人口は増加していますが、有松の人口は2000年まで減少し、その後は横ばいです。



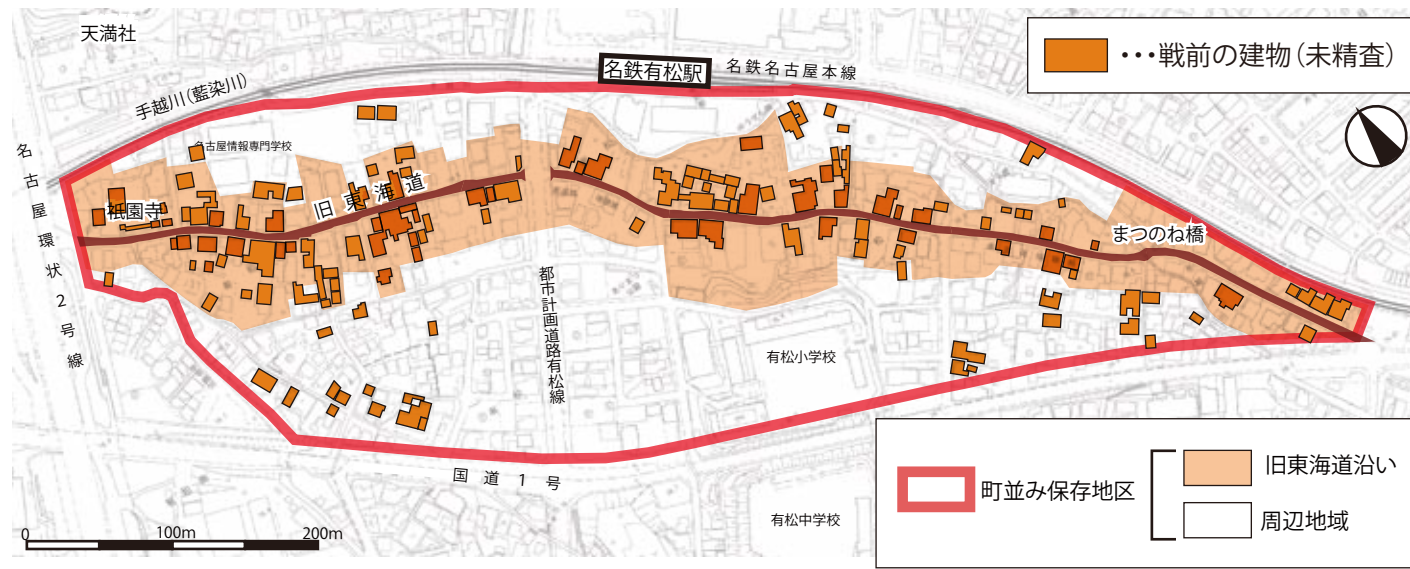
東海道沿いにおける戦前の建物数の変化

戦前に建てられた伝統的な建物数は、旧東海道沿いでも全体の約4割まで減少。



町並み保存地区における戦前の建物の分布現況

戦前に建てられた建物は、旧東海道沿いに多く分布しています。



有松地区のSWOT分析

SWOT分析とは、物事の現状を「強み」「弱み」「機会」「脅威」の4項目によって、図にして分かりやすく分析する方法です。

有松地区に吹いている「機会」の風をとらえて、地域の「弱み」を変えていくことが、まちの活性化につながるのではないのでしょうか。

内部環境

強み Strength

- ・名古屋周辺で唯一の町並みがある
- ・町並みの他に「有松絞り」や「山車」という売りがある
- ・地域の絆が強い

弱み Weakness

- ・地区に多様な商業や飲食店がなく、来訪者を十分に満足させられない
- ・古い建物を見学する場所がない
- ・町並みが失われつつある。

外部環境

機会 Opportunity

- ・歴史をテーマとしたまちづくりが、全国で見直されている
- ・和風や本物志向がブーム
- ・高速道路が開通してアクセスが向上

脅威 Treat

- ・マンション等の開発圧力がある
- ・周辺に大型店が増え、商業地としてのポテンシャルが低下している
- ・住民の高齢化が進んでいる

有松地区の現況のまとめ

- ・歴史をキーワードとするまちづくりが全国各地で盛んになる中で、有松は名古屋でも有数の歴史的資源に恵まれた町です。
- ・戦前に建てられた伝統的な建物数は、旧東海道沿いでも全体の約4割まで減少しています。空き家もみられるため、早急に何らかの手立てが必要です。
- ・今、若者には歴史や古民家がブーム。高速道路の開通で全国からのアクセスも良くなり、有松のイメージを変えるチャンスです。

町並み保存地区の調査に関する主な質疑内容

Q 建物調査の対象となる建物は？

今年度の建物調査は、主に、概ね戦前に建てられた建物で、東海道沿いに立地するものを対象に実施します。(事前に所有者に了解を頂いた上で調査を実施します)

Q. なぜ建物内部の調査が必要なのか。これまでの調査結果を利用できないのか？

町並みや建物の価値を明らかにするためには、建物の外観だけではなく、屋根裏の構造などをきちんと調査し、建物の建築年代や改変状況などを明らかにすることが必要です。これまでの調査結果についても活用しますが、屋根裏の構造の再確認などのために改めて調査が必要です。大変お手数をおかけしますが、調査にご協力をお願いいたします。

Q. 伝建地区(伝統的建造物群保存地区)の指定を視野に入れた今後のスケジュールは？

まず、今年度~来年度の2か年にわたり調査を実施します。これと並行して、伝建地区制度に関する説明会を開催したり、地域の皆さんと今後のまちづくりの方向性について話し合いを行ったりしたいと考えています。伝建地区の指定については、調査後、地域の皆さんの理解・合意を得た上で手続きを進めていくことになります。

Q. 古い建物は耐震性が心配。町並み保存と耐震対策は両立できるのか？

近年、耐震診断や耐震改修の研究が進んでおり、古い建物についても耐震性の確保が可能になってきています。専門家の無料派遣制度もありますので、まずは歴まち室にご相談ください。

～今が、有松のまちづくりのチャンスです～

東海道の無電柱化や有松一里塚の復元などが目に見えるようになる中、今がまちづくりのチャンスです。

皆さんで有松の将来のイメージを語り合い、町の魅力向上・活性化に向けて、地域として小さな所から動き始めることが望まれます。

有松一里塚の復元



東海道の無電柱化

